

本書は、1994年に出版された『An Integrated Approach to Intermediate Japanese (中級の日本語)』の改訂版である。当時、ウィスコンシン大学で日本語を教えていた三浦とマグロインは、そのころアメリカで使われていた中級用教科書が我々の教え方に合わないのを、我々の二年生のレベルで使える教科書を作ろうと努力し、二年間でこの教科書を書き上げた。それから十四年経ったわけだが、その間、この教科書が、多くの先生方、そして日本語を学ぶ学生さんたちに使っていただくことができたことを、我々は非常に嬉しく思っている。

教科書は出版されたその日から古くなる、とよく言われているが、まさにその通りである。また、この十四年間の日本語、日本文化の変化にはめざましいものがあった。特に日本の若者たちの話し方には大きな変化が見られるし、女性の役割など、日本事情の変化も少なくない。そこで、遅ればせながら、古い情報と言語使用を更新し、改訂版として出版することにした。しかし、教科書構成の大枠は変わっていないし、日本語四技能を伸ばすとともに日本社会事情の理解を深めようとする初期のねらいも変わっていない。

94年に発行した第1版は、三浦とマグロインがお互いにアイデアを出し合って完成したものだった。「会話」と、生教材以外の「読み物」は三浦の執筆したものが多かったが、マグロインの貢献も少なくなかった。その他は、三浦がCulture Notes、運用練習、聞き取り練習、速読を、そしてマグロインが単語表、文法ノート、文法練習を担当していた。今回の改訂版では、マグロインが改訂作業全般を担当し、三浦がそれに目を通すという形をとった。

この改訂版の出版に関しては、ジャパントイムズ出版編集部の関戸千明さん、岡本江奈さんにひとかたならぬお世話になった。また、改訂作業に関しては、北海道大学の柳町智治教授の協力を得ることができて幸いだった。柳町教授には、特に会話や読み物本文の見直しにおいて、日本の現状に即した貴重なアドバイスをいただいた上に、CD収録の際も大変お世話になった。この場を借りて改めて感謝申し上げます。そのほか、この教科書を使ってくださっている多くの先生方からも、この教科書に関して、数々のご指摘をいただいた。心よりお礼を申し上げたい。

2008年6月

マグロイン花岡直美 (ウィスコンシン大学教授)

三浦 昭 (ウィスコンシン大学名誉教授)

はしがき	iii
ほんしょ 本書について	vi

第 1 課	>>> しょう かい 紹介	[はじ 初めて人に会う]	1
第 2 課	>>> あいさつ こと ば 言葉	[あいさつする]	23
第 3 課	>>> 日本への りゅう がく 留学	[たの 頼む]	43
第 4 課	>>> ホームステイ	[きよ か 許可をもらう]	61
第 5 課	>>> 大学で	[しつもん 質問する] [アドバイスを求める / 与 ^{あた} える]	83
第 6 課	>>> レストランで	[ちゅうもん 注文する] [しんよう 引用する]	101
第 7 課	>>> レクリエーション	[人を さそ 誘う] [人に誘われる]	121
第 8 課	>>> アルバイト さが 探し	[し こと 仕事を探す]	141

第9課 >>> 贈り物おくもの [あげる／もらう] 159

第10課 >>> 旅行りょこう [予約する／切符を買う] 177

第11課 >>> ホストファミリーとの問題もんだい [文句を言う] [あやまる] 197

第12課 >>> 病気になったらびょうき [病状を訴える] 217

第13課 >>> 日本語体験たいけん [過去の経験を述べる] 235

第14課 >>> 日本の女性じょせい [自分の意見を述べる] 255

第15課 >>> ウチから見た日本、ソトから見た日本
..... [インタビューする] 277

ぶんぽうさくいん 文法索引 299
かんじさくいん 漢字索引 301
たんごさくいん 単語索引 317

◆この教科書のレベル >>>>

この教科書は、受け身形、使役形までを含む基本文法と100字程度の基本漢字の習得を終え、初級レベルの四技能を一応身につけた学生を対象としている。ウィスコンシン大学でいうと、一年のコース(240時間)を終えた者ということになる。ウィスコンシン大学は割合恵まれていて、一、二年の日本語が週8時間のコースなので、この教科書を二年の初めに始めて、各課に2週間かけると、だいたい一学年(30週)で全15課がちょうど完了する。一、二年のコースが週5時間しかない大学では、この教科書を二年の後半から使って下さってもよく、また第三学年にかかってもやむを得ないと思われる。

◆改訂について >>>>

1. 大学生の発話は、なるべく今の若者の発話に近くするように気をつけた。特に、文末表現は、女性的／男性的な表現を避け、中立的な表現にするように努めた。
2. 会話と読み物で、内容が日本の現状とずれるところは、新しいデータなどを取り入れて刷新を試みた。特に、第5課の日本の高校生・大学生に関する記述、第14課の女性に関する新聞記事は大幅に変えた。他の読み物も、大幅ではないが、現状と合わない記述は訂正した。会話では、第7課の会話2、第9課の会話1、そして第14課の会話2・3は完全に新しくした。
3. 第15課は、すべて新しく書きかえた。会話の機能も「インタビューする」というもので、会話は実際のインタビューに基づいている。読み物には「Coolな日本」「『きまり』だらけの日本、『きまり』のないタイ」という記事を選び、外から見た現代の日本を話題にしている。
4. 各課に「会話練習のポイント」という項目を新しく作った。会話練習のポイントは、各課の会話の機能に沿った練習をするための会話の枠組みを示すもので、会話を練習する際の手助けとなる。なお、この項目を設けることに関しては、この教科書(旧版)に準拠して作られた副教材集(2001年、岐阜大学留学生センター発行)に、そもそものヒントを得ているので、ここに記しておきたい。
5. 文法ノートと文法練習を増やし、文法練習は、教室作業と並行して行いやすいように、テキストとは別に設けたワークブックに収録した。文法練習には、似たような文法表現、例えば、「ことになる・ようになる」「ために・ように」「よう・そう・らしい」などの練習も含めた。
6. ワークブックには文法練習のほかに、読み物の内容質問と、各課の「書くのを覚える漢字」を練習するための漢字シートを取めた。

7. 音声教材は、すべての音声を新しく録音し直し、CDに収録して、テキストに添付した。各課とも、「会話」「聞き取り練習」だけでなく「読み物」も収録してある。
8. 教材の専用サイトを設けて、この教材を使って教える上で役に立つ教材や情報を提供する。このサイトから漢字シートをダウンロードすることもできる。
(2008年秋開設予定 URL: <http://ij.japantimes.co.jp/>)

◆この教科書のねらい>>>>>

1. この教科書の基本的な目標は、**中級レベルの学生の聴・話・読・書の四技能を並行的に伸ばす**ことにある。その目標に従って、次の諸点に心がけた。
 - a. 各課の中心に会話と読み物とを置き、また各課の最後には、速読用の読み物も設けた。
 - b. 書く練習としては、文法練習以外に作文も含めた。
 - c. 各課に、聞き取り問題を入れた。
2. 第二に、この教科書は、**現実的な内容と機能、そして自然な日本語を教えること**を目指し、そのために次の諸点に留意した。
 - a. 各課で、コミュニケーションに必要と思われる機能(紹介する、誘う／誘われる、など)を導入した。そして、その会話の練習がしやすいように、会話練習のポイントとして、各課の機能をハイライトした会話の枠組みを示した。
 - b. 会話を自然なものとするように(例えば、会話が書き言葉で行われたりしないように)気をつけた。また会話のスタイルも、「デス・マス体」のほか、「ダ体」や敬語などを適宜混ぜてある。
 - c. ワークブックに収録した「文法練習」は、置き換えドリルなどの機械的なものを避けて、考えて答えるものを中心とし、会話練習的なものも多く含めた。
 - d. authenticな日本語を示すという意味で、最後の5課分(第11課～第15課)の読み物には生教材(エッセイ、新聞記事など)を使用した。
 - e. 各課に、「運用練習」の名でcommunicativeな練習をつけ、ペアワークや小グループワークにより、学生が積極的にコミュニケーション活動に参加できるようにした。

復習用の漢字

ふく しゅう よう かん じ

- | | | | | |
|----------|-----------|----------|----------|---------|
| 1. 一 | 2. 一つ | 3. 二 | 4. 二つ | 5. 三 |
| 6. 三つ | 7. 四 | 8. 四つ | 9. 五 | 10. 五つ |
| 11. 六 | 12. 六つ | 13. 七 | 14. 七つ | 15. 八 |
| 16. 八つ | 17. 九 | 18. 九つ | 19. 十 | 20. 百 |
| 21. 千 | 22. 万 | 23. 円 | 24. 日曜日 | 25. 月曜日 |
| 26. 火曜日 | 27. 水曜日 | 28. 木曜日 | 29. 金曜日 | 30. 土曜日 |
| 31. 四月 | 32. 九月 | 33. 大きい | 34. 小さい | 35. 古い |
| 36. 白い | 37. 早い | 38. 高い | 39. 安い | 40. 忙しい |
| 41. 今 | 42. つくえの上 | 43. へやの中 | 44. いすの下 | 45. 少し |
| 46. 好き | 47. 一年 | 48. 時間 | 49. 五分 | 50. あの人 |
| 51. 日本人 | 52. 日本語 | 53. 英語 | 54. 東京 | 55. 男 |
| 56. 女 | 57. 子 | 58. 父 | 59. お父さん | 60. 母 |
| 61. お母さん | 62. 高校 | 63. 大学 | 64. 勉強 | 65. 先生 |
| 66. 山田 | 67. 名前 | 68. 車 | 69. 会社 | 70. お金 |
| 71. 天気 | 72. 元気 | 73. 毎月 | 74. 毎年 | 75. 行く |
| 76. 来る | 77. 来年 | 78. 食べる | 79. 日本食 | 80. 飲む |
| 81. 見る | 82. 読む | 83. 書く | 84. 話す | 85. 聞く |
| 86. 思う | 87. 入る | 88. 入れる | 89. 出る | 90. 知る |
| 91. 言う | 92. 休む | 93. 使う | 94. 会う | 95. 買う |
| 96. 作る | 97. 持つ | 98. 待つ | 99. 習う | 100. 住む |
| 101. 何 | 102. 友だち | | | |

(読みかたは次のページにあります。)

- | | | | | |
|------------|------------|-----------|------------|-----------|
| 1. いち | 2. ひとつ | 3. に | 4. ふたつ | 5. さん |
| 6. みっつ | 7. よん/し | 8. よっつ | 9. ご | 10. いつつ |
| 11. ろく | 12. むっつ | 13. なな/しち | 14. ななつ | 15. はち |
| 16. やっつ | 17. きゅう/く | 18. ここのつ | 19. じゅう/とお | 20. ひゃく |
| 21. せん | 22. まん | 23. えん | 24. にちようび | 25. げつようび |
| 26. かようび | 27. すいようび | 28. もくようび | 29. きんようび | 30. どようび |
| 31. しがつ | 32. くがつ | 33. おおきい | 34. ちいさい | 35. ふるい |
| 36. しろい | 37. はやい | 38. たかい | 39. やすい | 40. いそがしい |
| 41. いま | 42. つくえのうえ | 43. へやのなか | 44. いすのした | 45. すこし |
| 46. すき | 47. いちねん | 48. じかん | 49. ごふん | 50. あのひと |
| 51. にほんじん | 52. にほんご | 53. えいご | 54. とうきょう | 55. おとこ |
| 56. おんな | 57. こ | 58. ちち | 59. おとうさん | 60. はは |
| 61. おかあさん | 62. こうこう | 63. だいがく | 64. べんきょう | 65. せんせい |
| 66. やまだ | 67. なまえ | 68. くるま | 69. かいしゃ | 70. おかね |
| 71. てんき | 72. げんき | 73. まいつき | 74. まいとし | 75. いく |
| 76. くる | 77. らいねん | 78. たべる | 79. にほんしょく | 80. のむ |
| 81. みる | 82. よむ | 83. かく | 84. はなす | 85. きく |
| 86. おもう | 87. はいる | 88. 入れる | 89. である | 90. する |
| 91. いう | 92. やすむ | 93. つかう | 94. あう | 95. かう |
| 96. つくる | 97. もつ | 98. まつ | 99. ならう | 100. すむ |
| 101. なに/なん | 102. ともだち | | | |

会 話

かい わ

≫≫≫≫ 1



1≫≫02

- 1 ● 高校で二年間日本語を勉強して大学に入ったばかりのキャロル・ベーカーが、日本人会のパーティーで日本語の石山先生に初めて会う。
1

キャロル： あのう、失礼ですが、石山先生でいらっしゃいますか。

石 山： ええ、石山ですが。

- 5 キャロル： キャロル・ベーカーと申します。

石 山： ベーカーさんですか。どうぞよろしく。

キャロル： よろしくお願ひします。先生、いつからここで教えていらっしゃるんですか。

石 山： 十五年前からですよ。

キャロル： その時に日本からいらっしゃったんですか。

- 10 石 山： ええ、そうです。

キャロル： 先生、日本はどちらからですか。

石 山： 東京です。ベーカーさんは日本へ行ったことがありますか。

キャロル： いいえ、まだです。でも留学したいと思っています。

石 山： 日本語の学生ですか。

- 15 キャロル： はい、日本語は高校で勉強したので、この二年のクラスに入れていただきました。

石 山： そうですか。今年ことしの二年のクラスは三田先生ですね。

キャロル： はい、そうです。

石 山： あのクラスは宿題が多いですよ。がんばってください。
2

- 20 キャロル： はい、がんばります。

